

令和6年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 鵠 生 園

ケ ア セ ン タ ー 鵠 生 園

特別養護老人ホーム 関野記念鵠生園

藤沢市片瀬海岸1丁目7番9号
社会福祉法人 上村鵠生会

令和6年度事業報告抜粋

I 社会福祉法人 上村鵠生会

1. 年次報告

- 令和6年 4月 1日 藤沢市と令和6年度の下記事業について業務委託契約を締結
- (1) 藤沢市包括的支援事業（藤沢市鵠沼南地域包括支援センター）
 - (2) 認知症等行方不明SOSネットワーク事業
 - (3) 生活支援型一時入所事業
 - (4) 介護予防教室業務
- 4月 1日 湘南なぎさ荘行財産使用許可（目的外使用）決定通知及び行財産目的外使用料減免決定を受ける
- 5月 8日 監事監査
- 5月 9日 令和6年度 第1回法人理事会
- (1) 令和5年度事業報告の件
 - (2) 令和5年度決算報告の件
 - (3) 令和5年度監事監査報告の件
 - (4) 社会福祉充実計画の件
 - (5) 第三者委員任期満了による選任の件
 - (6) 給与規程の改正
 - (7) 役員・評議員の賠償保険の件
- 5月29日 令和6年度 第1回法人評議員会（書面決議）
- (1) 令和5年度事業報告の件
 - (2) 令和5年度決算報告の件
 - (3) 令和5年度監事監査報告の件
 - (4) 社会福祉充実計画の件
- 6月 2日 法人50周年記念式典（場所：藤沢商工会議所ミナパーク）
- 6月 4日 鵠生園新人職員防災訓練
- 6月10日 ホーム利用者レントゲン検査（午前：鵠生園、午後：関野記念鵠生園）
- 6月25日 藤沢市家族介護者教室業務委託契約を締結
- 7月16日 鵠生園防災訓練
- 9月12日 荒井こと氏十八回忌
- 9月25日 鵠生園職員健康診断
- 10月 2日 特別養護老人ホーム鵠生園の受水槽交換工事に係る入札実施
株式会社日生設備を選定
- 10月17日 鵠生園デイサービスさんぽ 藤沢市（委託）による運営指導
- 10月31日 令和6年度 第2回法人理事会（書面決議）
- (1) ①受水槽交換の補正予算の件
②受水槽交換の入札、業者確定の件
 - (2) 特別養護老人ホーム鵠生園の高圧ケーブル交換並びに受変電設備改修工事の
補正予算の件
 - (3) 第2号議案の受変電設備改修工事等の入札の件
 - (4) 理事会開催の予定日
 - (5) 評議員会開催の予定日
- 11月 2日 多田すゑ氏十三回忌

- 1 1 月 5 日 特別養護老人ホーム鵠生園 津波避難訓練各部署実施
- 1 1 月 6 日 受変電設備改修工事等の入札実施
藤沢総合設備株式会社を選定
- 1 1 月 1 0 日 特別養護老人ホーム関野記念鵠生園 受変電設備法定点検実施
- 1 1 月 1 6 日 藤沢市片瀬地区津波避難訓練
- 1 1 月 1 7 日 特別養護老人ホーム鵠生園 受変電設備法定点検実施
- 1 1 月 2 7 日 第三者委員会開催
- 1 1 月 2 7 日 令和6年度 第3回法人理事会
 - (1) 令和6年度事業の経過報告
 - (2) 受変電設備改修工事等の入札の報告
 - (3) 令和7年度空調設備の交換工事の件
 - (4) 給与規程の改正の件
- 1 1 月 2 7 日 令和6年度 第2回評議員会
 - (1) 令和6年度事業の経過報告
 - (2) 受変電設備改修工事等の入札の報告
 - (3) 令和7年度空調設備の交換工事の件
 - (4) 給与規程の改正の件
- 1 2 月 1 9 日 特別養護老人ホーム鵠生園 受水槽工事着工

- 令和7年
- 1 月 2 4 日 特定技能実習生（ベトナム人）2名入職
 - 2 月 8 日 常立寺慰霊墓法要
 - 2 月 1 4 日 鵠生園受水槽工事完了・引き渡し
 - 2 月 2 8 日 社会福祉法人上村鵠生会 創立50周年記念誌発行
 - 3 月 1 9 日 令和6年度 第1回職員会議①（3月25日 職員会議②）
 - ・令和7年度法人事業計画及び処遇改善計画について
 - ・全体研修（グループワーク）
 - 3 月 2 9 日 令和6年度 第4回法人理事会
 - (1) 令和6年度事業の経過報告
 - (2) 令和7年度事業計画の件
 - (3) 令和7年度収支予算（案）の件
 - (4) 鵠生園デイサービスさんぽ運営指導の結果報告
 - (5) 就業規則及び給与規程の改正の件
 - (6) 理事会・評議員会の開催予定日の件

2. 人事（組織及び職員構成）

- 1) 令和6年度 社会福祉法人上村鵠生会組織図に看護部を新たに設けた。
- 2) 役員及び職員構成 職員数は240名前後で安定して推移。
- 3) 入退職者推移 入退職共に前年度比約30%減。職員の定着向上が安定した運営にも寄与。

Ⅱ 特別養護老人ホーム鵠生園

- ・特別養護老人ホームを取り巻く経営環境は、人口減少社会を迎え生産年齢人口減少による慢性的な人手不足、サービス事業者間の競争激化による利用者確保の難しさ、一年を通じてのコロナ、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の流行による入居者の入院や短期入所の一時休業、継続的な物価高騰などがあり、大変厳しいものとなっている。そのため、経営が悪化している施設が多く、赤字経営の施設が半数を超えるに至っている。その状況を踏まえて令和6年度からの介護報酬の改定では介護老人福祉施設（従来型）については要介護3で20単位、要介護4で22単位、要介護5で1日24単位、いずれも1人、1日あたり）の報酬の上昇があった。
- ・このような状況の中で鵠生園特養ホームでは、介護報酬による増収のみではなく新規加算の取得を積極的に行った。具体的には協力医療機関連携加算、高齢者施設等感染対策向上加算Ⅰ、配置医師緊急時対応加算を取得し、また、一本化された処遇改善加算についても最上位である処遇改善加算Ⅰが取得できる体制を整えた。さらに、退所後の新規入所者の迅速な入居、ショートステイによる空床利用の促進によるベッド稼働率の上昇を目指し、物価上昇に対応した経費の見直し、食費の値上げ等により経営の安定を目指し運営した。その結果、収益が大幅に向上し良い数字で1年を終えることができた。
- ・サービスの面では、施設として利用者の生活の質を向上するため、面会の緩和、ボランティアによるイベントの実施や行事、レクリエーションの増を行った。しかしながら、まだまだ、感染症の流行があり家族との外食や外泊を遠慮していただいていることや、家族会が行えていないことが今後の課題となっている。また、夏場にコロナによる感染症で入院等になり園を退所した方が数名いたことが大きな反省材料となり感染症の研修に各フロア、医務、ホーム室が参加しマニュアルの改訂等に努め、年明けに再度コロナが発生したときはゾーニングをしっかり行い、感染者の方も全員回復されるに至った。職員の質の向上を目指して、また認知症の加算の取得を目指して、令和6年度より資格取得の促進のほか、認知症介護実践者研修の参加を開始した。数か月の長丁場になる研修であるが年度内に研修を終えた者が3名、研修中が1名、次年度の申込中が3名となっている。今後は認知症介護リーダー研修への参加も進めていきたい。
- ・人材確保については令和6年度より外国人の採用に踏み切った。具体的にはベトナムから、特定技能実習生として2名の受け入れを行った。9月に採用し、1月に来日入職、現在現場で介護を学んでいるところである。入所者の確保については申込時に見学をしていただき、家族と面談することで入所希望者の状態やニーズを正確に把握し、迅速な調査訪問に繋がった。退所については29名中18名が当園での看取りとなっている。退所後アンケートを記入いただいているが皆さん「鵠生園で過ごせてよかった」と感謝してくださっている。令和7年度もますます経営環境は厳しくなると予想されるが、厚生労働省の生産性の向上の指針を運用し、サービスの質の向上、職員の質の向上を図り、「鵠生園で働いてよかった」「鵠生園に入所してよかった」「鵠生園で看取ってもらってよかった」と職員、利用者、家族が感じられるようなホーム経営を行っていきたい。

Ⅲ ケアセンター鵠生園

1 鵠生園デイサービスセンター

- ・8月16日（金）台風7号の接近に伴い、9:30～13:00迄（3時間以上4時間未満）の時短サービスで実施した。今後も台風等自然災害の状況の予測判断を早めに、利用者・職員の安全を優先していきたい。
- ・4月から常勤職員を採用したが、半年で退職となり人材確保やOJTの活用での育成の難しさを実感している。今後も安定した職員の働きやすくやりがいを感じられるような部署を目指していく。1年間を通じて利用者数はほぼ安定しており延べ利用者数月 650人以上としていた目標数値を大きく上ったが、その分大規模に近い数字だったため注意しながらサービス提供した。
- ・令和6年度集計では新規利用者は44件、サービス終了者は46件で登録者数は95件となっており、年間通して利用者数も高い数値であった分、職員の負担が大きかった事もあり、7年1月より朝の申し送り開始

時間を8:20〜で固定し、それに伴い非常勤の勤務を8:15開始としたことで職員に働きやすい環境を提供する事とした。同時にドライバーと非常勤職員を増員して引き続き問い合わせや新規受け入れに対し出来るだけ対応できるよう努めていきたい。

また年間研修では必須項目を含めて年間計画を立てて予定通り進める事が出来たが、外部研修への参加が少なく職員を充てる人員も調整できない日が多かったが、次年度はより多くの職員へ外部研修への参加が出来るように勤務調整していきたい。

2 デイサービスさんぽ

- ・認知症対応型デイの特性として、認知症状・ADL 低下が進んでいる方のご利用が中心。そのため、在宅ケアのご家族負担が高いことからショートステイの利用、特養・有料ホームへの入所や入院が多く生じており、結果、新規登録者に対して中止が上回り利用率は低迷となる状況が続く。
- ・新規登録に向けて定期的に営業活動を行い、さんぽデイの特性を説明するがやはり認知症対応型デイに対するケアマネの認識が「重度の認知症」「重介護」というイメージがぬぐい切れていないと感じる。
また、一般型デイに比較し利用料金も高いことから、サービス利用数が多い方ほど利用しづらさを感じて
ることもある。
- ・しかし、ご利用されているご利用者のご家族やケアマネからは、「いつも楽しそうな顔で帰ってきます」「表情が柔らかくなりました」「さんぽデイがあつてみたいです」などの嬉しいお声も多く頂いている。
ニーズは決して高くないのかも知れないが、さんぽデイだからこそ支えられるご家庭もあることを念頭に個別対応の意味、そこで過ごされるご利用者への効果などを関係各所に伝え、認知ケアに日々向き合われているご家族を支援し続けていきたい。そしてそれを継続出来るよう、適切な黒字運営を今後も目指していきたい。

3 湘南なぎさ荘

- ・令和6年度の目標は1単位あたり13名・登録者数100名以上を継続する事を目標にしておりましたが、1単位あたりの平均利用者数は12.3名、年度末においての登録者数は111名となりました。1単位あたりの利用者数13名平均とすると登録数は117名が望ましいものとなりますが、もうひと伸び足らずという結果となりました。ご利用者の体調不良が令和6年度は非常に多く、夏場においては登録数100名を割るかと思われましたが、各事業所様の紹介が多数あり、その後は徐々に盛り返すことができました。令和6年度の間問い合わせは計61件あり、そのうち利用に繋がったケースは37件となりました。ご利用者の希望日が偏ったことで曜日によって登録数が17程度から12程度とバラつきがあり今後の課題とも言えますが、この辺りをバランスよくお受けできれば、登録数も110程度で安定し、今後も同様の登録数にて推移するものと思われます。
- ・そのためにもこれまで同様、ご利用者が心から楽しめる、ご利用者同士あるいは職員とのふれあいの場としてのなぎさ荘であり続けたいと思います。骨折や病気による入院などで利用できなくなった方も多くおりましたが、そのほとんどの方が「なぎさ荘に帰りたい、戻りたい。」とのご希望がございました。残念ながら車いすの使用などによりやむなく別のサービスに切り替わることになった方もおりましたが、そのような身体状況になってもそのようなお声を多数頂けたこと、スタッフの温かい接遇には感謝の言葉以外にありません。風通しの良い職場を目指す一方で、介護資格の取得に向けた研修や支援を充実させ職員全員で育てていく気持ちを持つ事によりサービス提供に対する質の向上や利用者増にも繋がっていくとも考えています。新年度に向けて生産性向上の面もスタッフ一丸となって対応しつつ、今後も引き続き「笑顔でご利用者にサービスをご利用頂く。笑顔でお家にお帰りいただく。」この言葉を大切にしていきたいと思います。

4 ホームヘルプサービス

- 令和6年度は、サービス提供責任者を1名増やし、サービス提供責任者一人につき50名体制で登録利用者数300人を目標とした。年度末の登録者数は287人となった。改正により基本報酬が下がったが、特定事業所加算の要件見直しにより加算ⅡからⅠに変更することができ、加算率を上げることで対応できた。利用者総数287人のうち要支援者の割合は58%で前年度より増加している。新規受け入れを表す初加算算定数は134で前年度より11増加となっている。職員増加により稼働が増え登録利用者数を増やせたことと、加算率を上げられたことにより収益増加につながった。
- 前年度退職者2名に対し4名の比較的若手の入職者があったが、ヘルパー平均年齢は年度末現在57歳と高齢化傾向は変わらない。事業拡大には若手職員の増員が必要と感じる。しかし訪問ヘルパーは他部門の介護職員より、年齢が高くとも比較的体力面での負担が少ない活動の場も多いので、幅広い年齢の職員が個別のケースに対応できる。ヘルパー不足が加速する中で、職員がより適切な場面でより長く勤務できるように職場環境を整えたい。
- 特定事業所加算算定要件の中に、職員一人一人に対する個別の研修計画と実施報告の必要があるが、全年度同様オンライン研修を中心に行った。感染症予防に対する対応が変わってきたので、次年度は外部研修を積極的に受け、定例会での報告をする機会を増やしたい。加算要件に全員が看取り研修を受けることが追加となったため、看護部に研修を依頼し、実施できた。今後は法人他部門への体験研修を定期的に設けられるように連携し計画をしていきたい。

5 居宅介護支援センター

- 5月中旬から7月初旬までの1か月半、新規受け入れを中止したところ依頼件数がなかなか回復しなかった。その後は受け入れ件数が上限に達する事もあったが、入院や入所等での終了ケースを見越して新規受け入れ件数の調節を行った。居宅介護支援費(Ⅰ)の取り扱い件数が1人当たり45件未満となり、1人当たり40件前後のケースをこなす事が出来た。
- 特定事業所加算Ⅱについては、新たに算定要件となった「ヤングケアラー、障がい者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修等に参加している」を実施、週1回のミーティング、ケース検討会、各自個別の目標を達成するための研修、困難ケースの受け入れ、他法人との研修、24時間の連絡体制等の要件を満たし継続する事が出来た。例年通り他法人との研修は鶴生園にて年2開催する事が出来た。また、それ以外の要件である介護支援専門員実務者研修では、2名の研修生を受け入れ、地域ケア会議では、前年度に続き事例提出にて地域ケア会議に貢献した。また他の加算として、通院時情報連携加算・入院連携加算・退院連携加算・ターミナルケア加算等についても取得に努め、引き続き次年度も特定事業所医療介護連携加算の要件を満たすことが出来た。特定事業所加算Ⅱ、特定事業所介護医療連携加算の継続が本事業所の黒字経営に大きく寄与するため、今後も積極的に退院ケースや自宅での看取りケースの依頼を受けて行きたい。ターミナルケースを積極的に受け入れているが、半数以上が施設入所や緩和ケア病棟に入院するケースとなった。加算要件である在宅での看取り件数が、令和6年度から5件⇒15件と3倍になり、なんとか要件を満たす事が出来たが、今後はより積極的に取得に努めていきたい。認定調査については、藤沢市内の委託調査の他に、鎌倉市を含む他市の調査や、他県からの委託を受けており、他県からの問い合わせが多かった。
- 令和6年度よりケアプランデータ連携を活用しており、今後は連携事業所を増やす事で、実績入力など職員の業務負担軽減を図っていきたい。
- 新規相談は前年度同様入院時の新規申請や要支援からの区分変更申請を行ったケースが多かった。新規の相談が必要に応じて入ってくるということは、居宅職員がどんなケースでも受け入れ必要な支援ができていと近隣包括から評価されていることの結果と考えられる。今後も地域の中核的な居宅介護支援事業所として、困難ケースについても依頼があれば対応し、法人内はもとより、他事業所や行政・包括・病院等の関連機関と連携しながら利用者の尊厳を守りつつ支援を行いたい。

6 藤沢市鵠沼南地域包括支援センター

- 令和6年度も会議や地域の行事などの参加を通じ地域団体や地域の方と交流、関係性を高めていくことが出来た。引き続き地域づくり、地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワークの形成を目指して行きたい。
- 相談件数は前年度（2119件）とほぼ同じ件数となった。ただ、相談内容が、障がい、精神疾患、生活困窮、8050世帯、身寄りのない一人暮らしの方、支援拒否の方など複数の課題を抱えていたり、世帯へのアプローチが必要であったり、複雑かつ長期の関わりが必要なものが増えてきている。また、介護保険のサービス等にはすぐに結びつかない相談も多くなっている。

相談件数の増加、様々な相談内容への対応、地域との関わり、介護予防ケアマネジメント及び給付管理など業務内容が多岐にわたり、地域包括支援センターの業務が増えていく傾向は変わらずあり、職員の技量のアップや業務内容の効率化も考えながら引き続き運営をしていきたい。

7 在宅介護支援センター

- 地域活動の内訳として、委託事業は、鵠沼地区で「介護予防教室」を月2回、片瀬地区での「介護者教室」が年3回開催。「介護者教室」は、片瀬市民センターで開催し「40代からの認知症講座」「最期の居場所のご自宅にしますか？」「高齢者の老いと病への向き合い方と過ごし方～訪問看護のサービス」を開催。「最期の居場所は…」では、いい内科医院の石井先生、「高齢者の老いと…」のテーマはLife&Com 管理者柳澤氏を招き講演。石井先生の講座には50名近くの参加、柳澤氏の講座から、実際にサービス利用にもつながった。
- 地域支援では地区社協主催の「ミニ講座」、「高齢者まちかど相談」が毎月1回、「介護者のつどい」と市役所主体の高齢者支援の地域会議「協議体」が、どちらも年に4回開催。
- 他では11月、昨年に続き協議体の企画から、地区社協や民生委員、町内会から参加する地域交流会に参加。令和6年度も認知症のテーマで講義を受けた上で、グループワークにて意見交換会を行った。
- 今後も片瀬地区の社会福祉協議会、地域包括支援センターとも連携を図り、地域の高齢者福祉に深く貢献できるよう、「地域福祉」に力を入れる高齢者施設として一層の役割を担っていきたい。

8 徘徊高齢者SOSネットワーク

令和6年度末で登録者数は109名となっており、新規登録者数は42名（男性19名、女性23名）、廃止者数は37名（男性14名、女性23名）となっている。

令和6年度は一時保護の実績はなかったが、これからも一時保護入所や確認手続きについて、関係機関と協力をし、認知症高齢者等の生命の安全を図りたい。

IV 特別養護老人ホーム関野記念鳩生園

1 ホーム室

- ・退所が30名と過去年度と比較してやや多い年度となったが、前年度と比べ明らかなご利用者様への感染数の減少（令和5年度9名→令和6年度3名）となり、本入所様の体調面での安定化が図られた年度であった。また、相談員、ショート担当共同で本入所のベッドコントロールを行い、ショートステイから入所へ切り替えは7件入所へ繋げる事ができている。そのため、本入所平均稼働率も例年並みの数値にて落ち着き、収支の安定につながったと思われる。引き続き、相談員一丸となりベッドコントロールを行うとともに、感染面では職員の体調管理、換気や消毒を呼びかけ、施設へ持ち込まない、拡げないことを第一に感染予防に努め、感染時のマニュアルの再確認や物品準備等、有事の際にも慌てずに対応できるよう準備を進めていく。
- ・感染動向により、外部の方との交流が難しい年度となってしまったが、次年度は家族面会の方法、地域の方のボランティア活動、職員の外部研修等、感染対策を取りながら積極的に外部との関わりを持てるようにする。
- ・生産性向上について積極的な動きを取ることができなかったが、次年度は副主任を委員とし、丁寧な課題抽出から、各フロアの課題を絞り込み、機器ありきではなく、あくまでも業務課題の解決から、生産性の向上を目指し、ご利用者様へ還元ができるよう努めていく。
- ・開所より8年目が経過し、徐々に施設設備に不具合が生じ始めている。引き続きメンテナンスを定期的に行い、不具合の早期発見、修繕に努め、大規模な設備工事費軽減に努めていく。

V その他活動状況

1 ボランティア活動状況

- ・登録者総数164名。通常活動を再開。ただし、園内でコロナウイルス等の感染症を確認した場合、活動を停止していただく等の対応を行った。

2 地域公益事業

- ・藤沢市内の社会福祉法人が連携し、共同で地域公益事業を行うための「藤沢市地域公益事業推進協議会」には当法人も参加しており「なんでも相談窓口」を開設している。高齢のみならず、障害分野、子育て分野も相談できることになっているが十分に周知されていないのか実際の相談は、令和6年度はなかった。実際に他分野の相談があった時のため職員が研修に参加している。今後、窓口として意味のあるものになるように藤沢市社会福祉協議会とも連携し事業を継続していく予定である。
- ・また、社会福祉法人の地域公益事業として平成26年度より神奈川県社会福祉協議会が主体の「かながわライフサポート事業」にも賛助会員として登録を行っており今後も引き続き協力をしていく。

3 実習生・見学受入れ状況

月	所 属 名	人員	日数	目 的
9	文教大学 健康栄養学部	6	10	管理栄養士実習
10	湘南看護専門学校	8	2	老年看護学実習Ⅱ

4 苦情・相談受付件数

- ・令和6年度苦情・相談受付件数は合計11件。苦情・相談の主な内容として、接遇に関する事、物品の破損に関するもの、送迎の運転等車に関するものがあった。苦情や相談は反省およびサービスの質の向上の余地と捉え、改善すべき点は各セクションやリスクマネジメント委員会で検討して職員間での情報共有を図り対応を行っている。さらに第三者委員の方にもアドバイスをいただきながら、法人として各種研修も組み込み職員の資質の向上に努めていきたい。

5 役員・職員(外部)研修状況

県高齢協や県社協等が主催する外部研修やWeb研修に参加。令和7年度も引き続き研修を実施していく。

6 職員法人内交流研修

従来型多床室型の特養・特別養護老人ホーム鵠生園とユニット型特養・関野記念ン鵠生園の人事交流を実施した。